



## 審判ハンドブック

### I SCU(1人制審判)に準じた方式

ソロチェアアンパイア(SCU)方式は、これまでの主審がついた試合とも、セルフジャッジの試合とも少し違います。

	これまで	SCU
審判の人数	主審・副審の2人体制	主審のみ
主審の役割	①アウト・フォルト等のジャッジとコール ②カウントのアナウンス ③ジャッジペーパーの記載 ④レットのコールは審判	①オーバールール※1 ②変更なし ③変更なし ④変更なし
選手の裁量	①レットはかけられない ②ジャッジはしない	①変更なし ②アウト・フォルト等のコール※2

・ボールがコート内に入ってきた場合の「レット」。

(※レットの時点でそのポイントはやり直す。北海道ローカルルール、有効打は取らない。)

※1について

「SCU」では、選手がアウトやフォルトといったジャッジを行うセルフジャッジとおなじく、ネットより自分側のコートのジャッジをします。選手が「アウト」をジャッジするのですが、あきらかにまちがったジャッジをしたときは主審が訂正できます。「アウト」と選手がいったボールがあきらかにコート内に入っていたら、主審はそれを「イン」にでき、「アウト」をコールした選手の失点になります。試合では、「コレクション、ボールワズグッド」と言います。選手のジャッジが明らかに間違っている場合は審判にはその裁定を覆す権限があり、これをオーバールールと言います。※2について・・・下記の「セルフジャッジ 5 原則」をご参考ください。

＜セルフジャッジ 5 原則＞

- 1 判定が難しい場合は「Good」(相手に有利)にする
- 2 「アウト」または「フォルト」はボールとラインの間にハッキリと空間が見えたとき
- 3 サーバーはサーブを打つ前にレシーバーに聞こえる大きな声でスコアをアナウンス
- 4 ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに
- 5 コート外の人、セルフジャッジへの口出しはしない

出典：公益財団法人日本テニス協会「テニス競技でのセルフジャッジ 5 原則の遵守と推進のお願い」

### II 審判員としての心得

・アナウンスとコール アナウンスの声は、適切なタイミングで周りにもハッキリと聞こえる大きな声で行う。

・コールは「大きな声」で「直ち」に

### III 選手の心得

・「アウト」「フォルト」のコールは、相手選手や審判に聞こえる大きな声で行う。

### IV オーバールール・間違いの訂正

① 明らかなミスジャッジは、選手や監督の抗議の前にオーバールール(訂正)する。

**選手や監督の抗議の後にコールを変更することはできない。**

(作成)北海道高等学校体育連盟テニス専門部

